

毎週 水曜発行
(8月から週 1 回発行となりました)

復興ニュース

55号
2011年
12月21日

発行：気仙市民復興連絡会
大船渡市盛町字内の目 14-15
<http://kesen-chiku.ecom-plat.jp/>
Twitter @KesenShiminFR
メール kesenshimin.f.r@gmail.com

正月 2日・3日 三陸鉄道盛駅 ふれあい待合室 帰省客の皆様 三鉄車両で交流を



被災し運行出来ない三陸鉄道、思い出の列車へ乗車し、お菓子やお汁粉を食べながら、ふる里の両親や兄弟・親戚・家族、さらに同級生や友人との語り・交流の場所として利用して下さいよう楽しい企画をしてお待ちしています。

「復興お楽しみ券」一人 200 円
車両乗車 子どもは無料（高校生以下）

三鉄盛駅ふれあい待合室では、200 円の「復興お楽しみ券」（お茶・お菓子・列車に乗車・プレゼント付）を購入頂き、多くの皆様に正月のお楽しみ会場として、三鉄ホームに停車しています懐かしの車両へ乗って頂き、お茶やお菓子、さらに豪華なプレゼント付で楽しんで頂きたいと呼びかけています。「復興お楽しみ券」は 12 月 23 日から販売を行います（当日もあります）。

三鉄車内 カラオケ 再開

夜の部：12月25日（日）午後7時 飲み物持込下さい
昼の部：12月26日（月）正午 … 弁当あり

震災前には三鉄レトロ列車内で釜石駅往復でカラオケ列車を運行していました。

この度、通信カラオケをレンタルし、列車内でカラオケを楽しむ行事を再開いたします。

場所は、三鉄盛駅構内停車車両内で行います。多くの方々のご参加をお願いします。

◆夜の部：12月25日（日）午後7時～9時 料金一人 1,000 円（ツマミ付）

飲み物各自持参 お楽しみの企画を準備しお待ちしております

◆昼の部：12月26日（月）正午～午後3時 料金一人 1,000 円（昼食付）

飲み物各自持参 お楽しみの企画を準備しお待ちしております

◆申込先：三鉄盛駅ふれあい待合室 Tel (0192) 47-3542

それぞれ定員 40 名、予約制：12 月 23 日までに申込下さい

事務所を移転しました

今後は「夢ネット大船渡」の事務所として開設 盛町字内の目 14-15

12 月 16 日気仙市民復興連絡会の世話人会を開催し事務所移転を確認しました。なお、これまでは気仙市民復興連絡会の事務所に夢ネット大船渡も同居していましたが、これからは夢ネット大船渡の事務所に気仙市民復興連絡会が同居することになります。今後ともよろしく願います。電話は当面気仙市民復興連絡会の電話 47-3271 (Fax 兼) を利用します。

大豆沢・上平仮設のお茶会

大豆沢仮設のお茶会

12月13日中央共同募金会からの支援を受けて開催しました。

大豆沢仮設にはこれまで集会所がありませんでしたが、追加工事にてようやく完成したこともあり、集会所完成記念として自治会がお茶会を開催しました。夢ネットの千葉さんと地域づくりネットサポートの栗村さんが招待され、集まった方々と震災のことや仮設での生活など懇談しました。当日は台湾出身でロス居住（現在東京）の方もパトロールに参加していましたので、出席者と片言の日本語で交流を図りました。「うどん」おいしかった。



上平仮設でのお茶会

12月14日、中央共同募金会からの支援を受けて開催しました。これまで何度か案内を受けながら出席できなかった夢ネット大船渡の岩城理事長から「挨拶とホラ話」が話されました。

支援員とともにお世話している地元の新沼孝子さん（夢ネット会員）から「ガンズキ」の作り方を、ビニール袋に粉と砂糖を入れて混ぜると後始末など簡単であることなど話しながら出席者と一緒に作っていました。当日の出席者には抽選で記念品もお渡ししていました。



遠く外国から支援に 3人

大船渡市出身で現在ロサンゼルスに住む鶴浦真沙子さんの紹介にて、飯盛さん（佐賀県出身・ロス在住）、シンさん（台湾出身）、樹宮さん（福岡県出身）が、12月13日から3日間、夢ネット大船渡の被災者支援訪問活動を手伝って頂きました。

その一人飯盛さんから、3日間の感想を投稿していただきました。

気仙が好きになりました

12月12日から18日までボランティア活動をさせて頂いている佐賀県出身、ロサンゼルス在住の飯盛裕介です。今回は短い期間ですが活動を通して沢山の被災者の方々とお話をする機会がありました。一番驚いた事は被災された方々の明るさと困難な状況にも負けない前向きな姿勢であり、私が逆に元気をもらってしまいました。

私はU.S. Coast Guard（アメリカ沿岸警備隊）という軍の部隊に所属しております。アメリカ国内外で発生する自然災害へ対応する初動部隊でもあります。3、4年後には今回の津波で流された瓦礫がアメリカ西海岸に打ち上げられると予想されており、その瓦礫の撤去作業は我々が中心となり行っていかねばなりません。今回の東北大震災は東北だけの問題ではありません。日本、そして世界全体が力を合わせグローバルに助け合っていく必要があると考えますのでこれからも支援活動を続けていきたいと思っております。

今回の滞在で気仙地域が大好きになってしまいました。また必ず戻ってきます。

皆さんこれからも苦境に負けず頑張ってください！

ロサンゼルス在住の飯盛裕介



事務所スタッフ一同

前列岩城理事長を中心に両側3人

新しい公共の説明会へ10団体21名出席

1月上旬から受付開始

12月14日午後1時30分から大船渡合庁で、「新しい公共支援事業」に係る事前説明会が開かれました。

当日は10団体21名に行政の方4名が出席し、県当局の畠山総括課長・佐々木特命課長から説明を受けました。

復興ニュース54号にも新しい公共について触れましたが、説明会では23年度分の残額と24年度予算額を合わせると約3億円規模であるので、沿岸被災地の団体から多くの申請を期待したいとお話してでした。

申請は仮設団地自治会でも可能であり、応募できる団体として、①NPO等及び県内の市町村を構成員とする協議体、②県内の市町村、③単独のNPO等（震災対応案件に限る。また、別に定める行政からの同意書を提出すること）。

出席者から、沿岸の団体は仲間が犠牲になったり思いはあっても組織的悩みもあり、市町村や県からの指導が必要である。ぜひ、「こんな事業はどうだろうか」等の提案（行政から）もあってもよいのではないか等の要望や意見がありました。

最後にこの事業の審査検討委員会委員長である倉原宗孝氏（県立大学政策学部教授）から、被災地の今後の復興も視野に入れた事業の申請をお願いしたい旨のまとめがあり閉会となりました。



第1回陸前高田市ネットワーク連絡会

12月13日、矢作コミュニティセンターに50団体82名が出席し、第1回陸前高田市ネットワーク連絡会が開かれました。最初に社協事務局長の及川賢一氏から「被災者に対する支援という志は一つなので、情報交換をし、今後も一緒に頑張っていきたい」との挨拶後、出席団体から自己紹介が行われました。

ネットワーク連絡会の目的として、①今までは各団体独自で活動してきたが、お互い各団体が何をしているのかはわからない状況。そのため、活動内容の重複、1団体では対応しきれないニーズでの協働体制などが取れなかった。それらの状況に対処できるようにするため連絡会を開設。

支援団体の課題として（1）情報共有：既存のネットワークはあるが、市全体に団体＋行政やNPOがなかった。②人材・物資・資金の不足。③支援の偏り：大きな仮設には物資が多く届くが、小さい仮設住宅・在宅被災者などには届かない現状。⇒ネットワークの構築

（2）運営方法として、①2週間に1回連絡会を開催、②毎回テーマを決め、そのテーマに関係ある団体に参加してもらい、議論。次回は1月10日 10:00から、場所は未定

初めてのウォーク



12月15日、三鉄盛駅ふれあい待合室主催の第1回ふれあいウォークには、13人の参加者がありました。ふれあい待合室の中村仁さんから、盛町内の名所や石碑を解説していただきながら回りました。参加者から「盛町内のことを知ることが出来楽しかった」。到着後、おやつにお汁粉がふるまわれました。次回は1月19日です。

左の写真は、明治33年に気仙地域に修学旅行で訪れた石川啄木を記念して建てられました。碑文は親友・金田一京助の筆によるものです。

『クリスマス』イベント開催

～竹駒町滝の里仮設団地にて～

12月17日(土)陸前高田市の滝の里仮設団地でワーカーズコープ主催による『クリスマス』イベントが開催されました。この日は小雪の舞う肌寒い日でしたが仮設にお住まいのたくさんの方々が集まり、炊き出しの豚汁や綿菓子等で温まり楽しんでいました。イベントの中には長野県からのギターバンドの演奏やリヤカーでの子供たちへのプレゼントの配布、家庭から出た廃油の再利用実演と盛りだくさんで寒さも忘れて皆さん楽しんでいました。



福祉基金への助成要望受付中

助成対象団体：社会福祉施設や社会福祉団体が対象、

助成事業の例：会報発行、パンフレット制作、ボランティア養成やスキルアップ研修、リーダー養成、障害者等の絵画展開催、当事者と家族のつどい、福祉を支える人づくり推進、福祉サービス提供の仕組みづくり等々

助成限度額：300万円

要望書提出期限：24年1月11日(必着)

提出・照会先：〒020-0831 盛岡市三本柳8地割i番3 岩手県社会福祉協議会内
財団法人岩手県福祉基金(担当：千葉) Tel019-637-9614



ご近所支え合い活動助成金

助成対象事業は、◆市町村単位もしくは市町村の一部で行う、次に掲げるいずれかの活動、①高齢者が主体となって行う活動、②高齢者等をサービスの対象とした支え合う活動。◆助成期間：多年度とする(原則)。◆助成額：5万円以上～30万円以下。◆募集締切：平成24年2月29日。

◆問合せ先・提出先：岩手県高齢者社会貢献サポートセンター

〒020-0045 盛岡市盛岡駅西通1-7-1 アイーナ6階 高齢者活動交流プラザ内
Tel019-606-1774 fax019-606-1765

浜松市民の手作り映画「青い青い空」特別試写会



12月17日午後、リアスホールマルチスペースにて、浜松市とNPO法人地域づくりサポートネット主催による浜松市民が作った映画「青い青い空 書道ガールズ」の特別試写会が開催されました。

この映画は、一口1000円の個人協賛集めから始まった地域振興映画製作プロジェクトであったとプロデューサーの稲葉大輔氏(浜名湖かんざんじ温泉：鞠水亭の専務取締役)が特別試写会に先だつての挨拶の中で語られました。

来年の3月24日、大船渡市で「浜松デー」、いや大船渡市と浜松市が一緒になって、生きる喜びを見出す素敵な一日にしたい。その日にリアス大ホールでこの映画を上映する予定です。多くの皆様にリアスホールへ来て頂きたいとご案内がありました。

★復興ニュースへのご意見・ご要望・そして投稿をお願いいたします。編集担当：岩城恭治
投稿先：大船渡市盛町字内の目14-15 NPO法人夢ネット大船渡 Tel47-3271